



# いちいの会 だより

平成27年  
39号

発行/社会福祉法人 いちいの会 <http://homepage3.nifty.com/kusunoki/>

ICHINOKAI VOL. 39



那須方面 1泊旅行にて

## 基本のき

総合施設長 清本健二郎

廊下を歩きながら、利用者の方に笑顔でアイコンタクト。そこに落ちているゴミをすっと拾ってポケットに入れ、何事もなかったように支援に戻る。そんな職員を見ていると、こちらも笑顔になる。

前職の園長からよく「ゴミを拾いなさい」と言われた。あとからその意味を教えてもらい、とても考えさせられたのを今でも覚えている。

ゴミを拾うには3つの力が必要である。まずは落ちている物に気付く「観察力」。次にそれを拾う「行動力」。最後になぜそこに落ちているのかを想像する「想像力・洞察力」。この3つの力こそ、

私たちが日々行っている「支援する」

ことに必要不可欠なものとなってくるのだ。

自分のことを上手く伝えられない利用者の方の、いつもとは違った行動や表情を読み取り、体調不良等に気づける観察力。利用者から頼まれたことに対して、優先してすぐに動くことができる行動力。また利用者の方の様々な行動の原因を想い浮かべる想像力と洞察力。

これこそが、日々私達が利用者の方々に寄り添うために磨きに磨かねばならない、大切な力なのだ。基本の「き」に立ち返り、笑顔で利用者の方々に寄り添っていきたい。

### ●目次●

- ◇施設長より……1
- ◇事業所だより……2
- ◇職員日記……3
- ◇家族会職員法人全体研修会、  
家族会・職員合同  
施設見学研修旅行…4
- ◇行事と旅行……5
- ◇とびっくす  
行事予定・販売会予定  
編集後記……6

## くすのき苑

支援課長 大谷 篤司

今年の10月にくすのき苑は15周年を迎えます。これも、今日まで支えてきていただいた、利用者・ご家族・関係機関の皆様のおかげであると大変感謝しております。

15年前、若干20歳だった私は社会人1年生であったこともあり、右も左もわからず、ただただ先輩職員について行くことに必死だったことを思い出します。この節目に改めて昔のアルバムを開くと、妙に老け込んだような気持ちになります。

利用者の方たちも同じように15歳、年を重ねました。開所当初に苑庭を走っていた方が杖をついて歩いたり、身体機能の低下が顕著に現れています。今後、更にそのスピードが増して行くことが予想されます。その対策として、近隣病院の理学療法士と提携し、日中活動の中で一人ひとりに合わせたリハビリを行っています。また、医療的ケアを必要とする方が現れることも見越し、今年度は2名の職員を喀痰吸引の資格取得の研修に派遣しました。数年先の利用者の生活を見据えて、今私達には何ができるのか、何をしなくてはならないのか。利用者一人ひとりに寄り添いながら考えていきたいと思えます。

とはいえ、たかが15年、されど15年。まだまだ至らない事がたくさんあり、多くの方にご迷惑をお掛けすることと思えます。これからも皆様にご指導いただきながら、「利用者にとっても職員にとっても、より良いくすのき苑」を確固たるものとしていきたいです。

## 中核地域生活支援センター のだネット 地域総合コーディネーター 金城 和子

平成16年に中核センター事業を受託し10年が経ちました。ありのままにその人らしく、地域で暮らすことができるように「誰ひとり見捨てない」として県内13カ所に24時間365日体制で福祉の総合相談として設置されています。ここ数年「罪を犯した障害者」の支援が増加しており、保護観察所・保健所・医療・行政との連携で地域生活を支える福祉サービスに繋いでいます。また相談支援技術の向上の為に弁護士・検事・判事の先生方と福祉関係者の「千葉モデル勉強会」に毎月一回参加し、犯罪に関係する講演会には積極的に足を運んでいます。去る7月2日に行われた千葉県地域生活定着支援センター主催の研修会『やり直せる社会』の講師はお好み焼きチェーン店「千房」の社長中川正嗣氏でした。刑務所から出所した無職者の再犯率が上昇傾向にあり、就職が困難な出所者の再犯防止を目的とし、出所者を雇用した企業に法務省が奨励金を支払う制度を利用して、対象者を初めて雇用した企業です。社長が「刑務所に出向き採用試験をする時のポイントは元気と礼儀。しかし受刑者は皆、元気に返事をし、礼儀正しい…」と笑って話されていましたが、次に続く言葉は「雇用した最初の2年間は個性はいりません。マニュアルに沿って働いてもらいます。」と厳しい口調でした。社長は常に再犯の危機に向き合い、他の職員の理解と信頼を得るために「愛」の言葉を掲げ、「愛の反対は無関心」と話されていました。私も、もう一度原点に戻ろうと思いました。「福祉は愛、愛から始まる。」と…。

## 相談支援センター いちいの木

センター長 菊田 賢一

今回は視覚障がい者からの相談の話です。視覚障がい者は、自宅の周辺や慣れた場所は、頭に「地図」を描いて生活されています。そのため、物の位置が変わってしまうと大変困るので「いつも同じ場所に置くこと」を大切にされています。外出時は白杖を利用しますが、慣れない場所では危険も多いので、同行援護という福祉サービスを使ってヘルパーの方と一緒に出かけられています。

野田市には盲導犬と一緒に暮らしている方が2名います。夏場は朝早くか夜遅くになってから散歩に出かけるそうです。昼間はアスファルトが熱く、盲導犬の肉球部分がやけどをしてしまうからです。また、人混みを歩く時は人をよけて歩くため、自分自身も盲導犬もかなり疲れてしまうそうです。そんな日には家に帰って「お仕事は終わりだよ」という意味でハーネスを外すと、リラックスして横になっているとのことでした。

外出時に困るのが、盲導犬を「ペット」と勘違いして、声をかけられたりスキンシップを求めて来られることだそうです。また、犬の散歩の時にリードをつけていない時、犬同士の接触ができてしまい困っているということでした。盲導犬はハーネスを付けている時は「仕事」であり、噛まれたり踏まれても泣いたり怒ったりしないのです。もし街の中で盲導犬を見かけたらやさしく見守ってあげてください。

## ワークショップくすのき

支援課長 戸辺 泰介

普段よりワークショップくすのきの運営にご協力いただきまして有り難うございます。

4月より新たな仲間を4人迎え入れ、4か月が経ちました。皆さん学校を出たばかりのため、急な環境の変化に大変戸惑われるだろうと、若干の心配をしていました。しかしそんな私たちの予想に反し、4名とも驚くほどスムーズにこちらの日課に馴染んでしまいました。若さゆえの物怖じの無さと柔軟性の高さのなせるもののでしょうか、感心することしきりです。フレッシュな雰囲気の中、新しい風と共に活気を吹き込んでくれ、賑やかに毎日を送っています。

革細工を始めとした自主生産品も、過去の作品の見直しや新製品の考案など、毎日のように様々な試みに取り組んでいるところです。近くのショッピングセンターやイベントなど、出来る限り多くの場所に顔を出していきますので、お目にする機会がありましたら、是非お手にとってご覧下さい。よろしくお願ひ致します。



## グループホーム かえで

生活支援員 小島 陽子

昨年11月に「グループホームゆりの木」が開所して早いもので半年が経ちました。開所当初は入居者も世話人も一日の流れに戸惑い、バタバタと慌ただしく過ごしていました。私も週3回ほど世話人としてゆりの木に入り支援に携わっています。入居されている方の年齢的なこともあり、便秘傾向や皮膚疾患など、身体的なケアが多いのも現状としてあります。他のホームよりも支援をする側の気づきが重要だと日々感じています。職員と世話人が相談しやすい環境にあることに重点を置き、早期に問題解決、対応するよう努めています。入居されている方々も落ち着いてゆっくりと楽しく生活されています。

ホーム全体としては、月に一度外食の日を作り、入居者と相談をして外食の場所やメニューを決めています。時々、他のホームと一緒に食事会などをして交流も図っており、入居されている方の楽しみの一つとなっています。また、地域のパトロールやイベント(釣り大会やボーリング大会)の参加も積極的に行い、地域の方と触れ合う機会を多くとっています。

今後も職員、世話人と共に研修や講習会でスキルアップし生活の質の向上を図りたいと思います。得た知識を生かし、入居者の方々が安心して楽しく暮らしていける環境を提供できればと思います。今後ご指導よろしくお願ひします。

## 職員日記

のだネット コーディネーター 五十嵐 孝子

嫁いだ家には3匹の犬がいました。しかし、昨年3匹とも次々にお迎えが来てしまい、犬小屋を見ては寂しい気持ちになる日々を過ごしていました。

ある日、里親のチラシを見た夫の一言で私達の犬探しが始まりました。チラシの犬は室内犬だったので断念しましたが、保健所の紹介で柏にある動物愛護協会東葛飾支所へ行ってみたところ、黒い犬が2匹、老犬の柴犬と白い犬がいました。他の3匹は愛想が良かったのですが、若い黒い犬だけは近づこうとすると「うー」と唸ります。職員の「おとなしくて良い子だけど…慣れるのに時間がかかるよ。でもこういう子がなつくと嬉しいよね」という言葉に後押しされて?! その子がその日のうちに我が家の一員になったのです。色が黒いので焼海苔の「のり」と名付けました。最初は「もしや声がないのか?」と疑う位おとなしかったのですが、段々と慣れていき、2か月たった今は早朝から散歩に連れて行くと吠え、私の事は「おもちゃ」のように咬んだり飛びついたり…完全になめられています。夫と義父のことは未だに怖がるので男性に怖い思いでもしたのかなと感じています。昨年から行けていなかった散歩が再開できて、近所の花の香りに季節を感じたり、空き地でひばりの雛を発見したりと楽しく毎日過ごせるも「愛犬のり」のおかげだと感謝しています。

## 社会福祉法人いちいの会 家族会職員法人全体研修会・懇親会

平成27年7月25日(土)於 柏クレストホテル

家族会役員 鐘ヶ江 二美

成年後見人制度がある事は知っていても、その制度の内容を詳しく理解はしていませんでした。つい最近の紙上でも成年後見人による不正が後を絶たず、財産を管理する親族のみならず、専門職の弁護士、司法書士、後見人などの使い込みが発覚し、4年半で被害総額が196億円にも及ぶとありました。

そんな中、今回家族会職員法人全体会の研修会で「後見人制度の概況」と題して野田市社会協議会の中野氏より制度の輪郭を学ぶことができました。また、実際に後見人として活動している、NPO法人東葛市民後見人の方々の話を伺うことも出来ました。正直、法人で後見人の活動団体があることを今回初めて知ることが出来ました。新しい制度だけに、それにかかわる人材不足を聞いたことがありますが、この法人では、後見人の養成、啓発活動など、活動理念がしっかりし、専門職とのつながりがあり、バックアップ体制がとれているのは大きな魅力だと思います。

研修会では制度の複雑さや手続きの大変さだけが印象に残りましたが、気軽に相談できる機関を知り得た事は大きな収穫でした。

あまり使い勝手の良い制度とは言い切れませんが、今後、時間をかけて法整備がなされていく可能性もありうると思います。そのためにも常にアンテナをはり、新しい情報に敏感になっていかななくてはいけないようです。

親の高齢化と共に、いつかは必要になってくる後見人制度、いつがその時か、なかなか判断が出来ないものです。自分の終活を一日のばし、後回しにしているのと同じです。

財産が有る無しにかかわらず、そこには家族の考えや思いなど、デリケートな問題も含まれ、後見人制度の問題は私の中で、まだまだ迷想しそうです。



## 家族会・職員合同施設見学研修旅行

生活支援員 中山 明日美

5月30日、家族会の方々と1泊2日の家族会職員合同視察研修に行っていました。今年で4回目となる視察研修会。2年目の私はまだ他の施設見学に参加したことが無く、今回の研修をととても楽しみにしておりました。

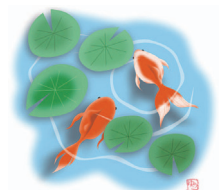
1日目は広大な大地と豊かな自然に囲まれた「北総育成園」。地域との密接な関係作りと生活の基盤となる入浴の大切さを学びました。2日目は利用者の半数以上の方が補助歩行器具を使用している、高齢化に特化した「しおさいホーム」を視察しました。食事面の工夫など、高齢の利用者に寄り添った支援はこれから私たちも直面するであろう問題であり、とても考えさせられました。視点は違えど、「利用者さんのより良い生活のため」という気持ちは、どの施設にも共通のものでした。

視察中、多くの工夫やアイデアを発見すると「これをくすのき苑でも出来ないだろうか。」「くすのき苑ではこうやっていましたよ。」等のご意見が家族会の皆様を中心にたくさん飛び交いました。この情報共有こそが研修の醍醐味なのだと実感しました。



今回の研修で学んだ場は視察だけではありませんでした。1日目の夜に行われた懇親会でも、ご家族の皆様とお酒を交えた熱い意見交換が行われました。今回は袖ヶ浦福祉センターから更生園施設長相馬様をはじめ、職員や家族会の方々、県障害福祉課根本副参事が研修に参加して下さい、大変賑やかな夜となりました。

私はまだまだ新米で毎日慌ただしい日々を送っていますが、今回の研修で得たものを少しずつでも形に出来たらなと思いました。





## 4月15日（水） 新任職員「いらっしゃいの会」

今年度も、くすのき苑に新しい仲間が増えました。いらっしゃいの会では、照れながらも、仕事への意気込みをしっかりと話してくれた4名の新任職員の皆さん。素敵な支援員になってもらえるよう、くすのき苑全体でサポートしていきたいと思えます。

生活支援員 渋谷 晴香



## 4月20日～21日 1泊旅行 群馬サファリパーク

春の陽気に誘われ、4月20日と21日の2日間、群馬方面へ旅行に行ってきました。グリーン牧場では、普段触れ合うことのない動物に触ったりご飯をあげたり、貴重な経験をする事が出来ました。天候にも恵まれ、楽しさと笑顔いっぱいの2日間でした。

生活支援員 内山 裕史



## 5月11日～12日 1泊旅行 大洗方面

5月11日、12日と大洗方面に1泊旅行に行ってきました。1日目は水族館に行き、たくさんの種類の海の生物やイルカやアシカのショーを見て大満足でした。2日目はひたち海浜公園をのんびりお散歩しながら、綺麗なお花畑を楽しんできました。

生活支援員 小島 優子



## 5月25日（月） 日帰り旅行 ひたち海浜公園

5月25日ひたち海浜公園に日帰り旅行に行きました。当日は風が少し強かったのですが、気持ちのいい快晴の下で、おいしい常陸牛ステーキ弁当をいただきました。食後は広い園内をみんなで散歩をしながら、色とりどりの季節の花を楽しみました。

生活支援員 石川 勝久



## 6月4日～5日 1泊旅行 那須

6月4日、5日と那須へ1泊旅行に行ってきました。1日目は可愛い動物たちと触れ合い、色鮮やかな鳥と記念撮影。2日目は揺れる吊橋に苦戦しながら、山間の綺麗な景色を見ました。予想以上に寒い日でしたが、可愛い動物たちと緑豊かな自然に癒された旅行でした。

生活支援員 柳瀬 菜



## 6月22日（月） 日帰り旅行 佐原

梅雨の合間の快晴の日、佐原方面へ日帰り旅行に行きました。おいしい料理を食べた後、のんびり水の郷佐原市をドライブ。途中で香取神宮や牛久大仏を眺め、神秘的な気分になりました。帰りはスタバでオシャレにフラペチーノ！とても楽しい1日でした。

主任生活支援員 山田 宗成



## とびくす

健康維持と運動不足の解消を兼ねて、毎日苑の周りを散歩しています。日々変わっていく景色を眺めながら、楽しく活動しています。



6月19日、あいにくの雨で室内になってしまいましたが、そうめんパーティーを行いました。竹を割って流すそうめんはまさに本格的。ちゅると美味しくお腹も心も涼しいパーティーとなりました。



### くすのき祭

11月1日(日)

皆様ぜひご来苑ください。楽しい催し物とおいしい模擬店をご用意して、お待ちしております。



## 行事予定・販売会予定

8月

8(土)~16(日)夏季帰省日

イオンタウン販売会  
支援スタッフ部会販売会

9月

2(水)健康診断 26(土)理事会  
1泊旅行・日帰り旅行

イオンタウン販売会  
施設連絡協議会販売会

10月

1(木)法人会全体・内定式

イオンタウン販売会  
ミライフ感謝祭販売会

11月

1(日)くすのき祭

イオンタウン販売会  
関宿公民館祭り・野田特フェスタ

12月

26(土)~1/3(日)冬季帰省日  
1泊旅行・日帰り旅行・クリスマス会

イオンタウン販売会  
支援スタッフ部会販売会



### ● 編集後記 ●

食べる事が大好きな私は、日々の暑さにも負けず栄養を蓄積していっています。夏は野菜がおいしい季節ですが、そんな野菜と一緒に食べるお肉がやっぱり一番の美味ですね。(伊藤)

日差しが厳しくなりどんどんと熱くなってきております。利用者さんの体調管理に気をつけると同時に、私の脂肪が日差しで溶けないかと思う次第です。(中山)

### いちいの会だより VOL.39

発行 社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑  
〒270-0222 千葉県野田市木間ヶ瀬3121  
TEL:04-7120-6667 FAX:04-7120-6668

発行人 総合施設長 清本 健二郎

編集 広報委員会 中山・伊藤・中嶋

発行日 平成27年8月1日

E-mail E-mail:kusunokien@nifty.com

H P URL:http://homepage3.nifty.com/kusunoki/